

## ④0 景観と防災機能の両立による「さいたま新都心公園」の整備

受賞機関 独立行政法人都市再生機構  
東日本都市再生本部

**キーワード** 防災公園、景観形成、オープンスペース

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

平常時には近隣公園として、災害時には一時避難場所とその後の災害復旧の拠点として計画された防災公園の整備事業。スペースの確保が難しい都市部への防災公園導入を、民間施設の土地利用転換を機に実現し、地域に必要な種々の防災機能を兼ね備えつつ、限られた面積の中で良好な景観形成に努め、世代を問わず地域に愛されるオープンスペースを確保している点が評価された。

### 1. はじめに

さいたま新都心地区は「大規模震災を踏まえた、防災機能の強化・充実」「公園空白地域の解消とみどりのネットワークの整備」が地区の課題として挙げられており、その先導プロジェクトとして民間の研究施設跡地に、広域防災機能を補完し、新たなみどりの創出を目的とした本公園の整備が検討された。独立行政法人都市再生機構は平成26年7月にさいたま市から防災公園街区整備事業の事業要請を受け、用地取得と公園の整備を進め、平成30年10月に「さいたま新都心公園」として供用を開始した。

### 2. 事業の概要

本公園では防災機能と新たな緑の創出、さらには防災機能を損なうことなく平常時にも開放的で広がりを感じさせる良好な景観形成の実現を目指し、約1.0haという面積を鑑みて極力シンプルなゾーニングに落とし込み、計画・設計を進めた。

明確かつ視線が通りやすい広幅員の出入口と、公園中央には芝生とインターロッキング舗装による広場を計画し、それらをフラットなレベルで整備して一時避難場所と復旧活動拠点としての動線・スペースを確保した。ま



さいたま新都心公園平面図

た透水性インターロッキングブロックの下には透水アスファルト層を設け、芝生広場は単粒度碎石に加え火山礫を主骨材にした土壌を用いることで芝生の生育を阻害することなく雨水流出抑制効果と災害時の大型車両の通行・駐留に耐え得る性能を有する。他にも防火樹林や簡易テントになる防災パーゴラやマンホールトイレも整備している。

### 3. 事業の成果

公園中央の芝生広場と舗装広場は災害時の避難動線や車両動線を阻害しないよう、またそれぞれの広場が空間的に連続するよう段差や植栽、構造物等は極力排除し、管理棟や防災樹林、遊具等は外周部に配置することで公園の水平面や開放さをより広く感じられる公園ゾーニングとした。公園西側の境界部においては、歩道を歩いている人が自然と公園に導かれることを狙い、フェンスや植栽等立ち上がりのある構造物等を設けず、さらに歩道と公園との舗装レベルを統一した。結果として本公園では防災機能だけでなく、公園敷地単体では得にくい、歩道や道路と公園の広場が一体的な空間を実現でき、公園利用者だけでなく住宅地と駅を行き来する人の新たな公園内への動線の創出も実現した。



さいたま新都心公園 芝生広場

### 4. おわりに

都心部に立地する公園では多くの機能や構造物が求められることが多いが、本公園では地区で不足していた「防災」「地域の憩いとなるオープンスペース」の充足を最優先とし、それらをコンパクトに実現できるよう導入施設の選定やゾーニング、隣接する道路や敷地とのレベルの統一等により実現し、都心部にありながら小さい面積でも解放感や周囲との一体感を得られる、良好な景観の防災公園を実現した。